

福知山市自治基本条例推進委員会 Aグループ部会(第1回)概要報告

[日 時]令和4年9月13日(火)9:30~11:50

[場 所]市民交流プラザふくちやま

[出席者]委員…9人、事務局…3人、傍聴者…1人

■ 開会

■ 挨拶

■ 自己紹介、アイスブレイク

■ 前回のふりかえり

■ 協議事項「21の提案(②③⑧⑱)の具体化・実現に向けて

(1)提案② 学校だけではない学びの場をつくり、「生きる力」と「困難に対するしなやかさ」を育もう

・福知山市では、地域未来塾などの学習の場があるが、それ以外にも地域の中で学習できる居場所があれば。

・「生きる力」として、コミュニケーション力は大切なので、気軽に集まって、遊びの中で力を育てる場が必要。

・オンライン学習は、学校に通えない子にとって重要な学びの選択肢。

・課題と向き合うためにも、好きなこと・得意なことに思い切り打ち込む時間は必要不可欠。それがあから頑張ることができると思う。

・親以外にも、その子の話をきちんと傾聴してくれる人がいることは重要。

・子どもの居場所を作る前に、周りの大人の学び直しが必要。コミュニティカレッジなどのサードプレイスを作り、大人の中にある子育ての知識をアップデートしなければ、いくら子どもだけの居場所を作っても根本的な解決にならない。

・保護者が子どものことで一生懸命になりすぎて前のめりになっているところもあると思う。親同士がもっと気さくに話し合えたら、子育ての辛さも和らぐのではないか。保護者の視野を広げることも大切。

・昔は、親からの学びの比重が大きく、しつけ=親の責任のイメージが強かった。今は、生涯学習で得られる学びなど、親以外のさまざまな人や文化との関わりの中で子どもが成長していくと思うので、公共施設の一部を開放し、地域で文化教室等を開くのはどうか。

・環境や教員との相性の問題もあるので、転校できるようにしたり、学校以外の学びの場を作ったりするのも一つではないか。話を聴いてくれる人が重要なのは同感なので、すでにある市の相談窓口等と当事者をつなぐための工夫が必要。

また、子どもの中には1人で頑張りすぎたり、頑張り方を間違えたりする子もいると思う。自分の弱さを認め、誰かの力を借りることも大切だと思う。

・支援の場の一つとして、退職した先生達のスキルやノウハウを活かしたフリースクールや、学校と家庭をつなぐコーディネーターや受け皿などの中間支援があればいいと思う。

【まとめ】

・地域の中で、子どもたちが気軽に集まり、遊びながらコミュニケーション力などの「生きる力」を育む環境作りが重要。

・学びの場の選択肢として、オンライン学習は重要。

・子どもに関わる大人たちの学び直し・子育ての知識のアップデートが重要。

・環境や周りとの相性の問題もあるため、転校などの対応ができるようになれば。

・元教師のスキルやノウハウを活かしたフリースクールや、学校と家庭をつなぐ中間支援があれば。

(2)提案③「子育ての話」を気軽にでき、先入観や「あるべき論」にとらわれず、一人ひとりの個性を生かした子育てができる環境をつくろう

・子どもの成長に応じて必要な支援や保護者の悩みは変わってくると思うが、必要な支援が十分に届いていないのが現状だと思う。人材も不足している。

子育てに関する相談や保護者同士で気軽に話し合う場づくりとして、オンラインを活用した相談等ができればいいと思う。

・すでに、NPO法人など民間主体の子どもの居場所はある。重要なのは、こういった集まり・活動があることを必要な人にどう伝えるかである。

・進学に伴う個別の移行支援シート「わくわく・のびのび中学生」「のびのび・いきいき高校生」という取り組みがあり、このシートを記入すれば加配の先生がついてくれる。

使えるものがあるのに、使っていない現状があると思うので、知る機会を増やすことが実は重要だと思う。こういったサービスや支援が知られていることが当たり前になれば。

・不登校等に悩む保護者が、行政の窓口でいきなり相談に行くのは勇気があることなので、もう少し気軽に話すことができる場があれば救いになるのでは。

・みなさんのお話を聴いて思ったが、子育て世代のお話を聴くことができる場が本当に少ないと思った。美化作業など、地域活動の中で子育て世代とつながり、関わっていく手がかりをつかんでいくことができればと思っている。

・保護者同士が語り合える場があればと思うし、子どもも学校以外で遊べる場があれば、もっと自分を出せるのではないかと思う。

・行政も、そろそろ「NO」と言うことが大事ではないか。行政が何でもやるのには無理がある。最近の事例も重要だが、寺子屋制度など、過去から学ぶことも大切。

また、今は、過干渉な親が多く、子どもの就職や結婚にまで関わる人もいる。子どものすべてに関われないことを、今一度自覚する必要があると思う。

・そもそも、福知山はいろんな立場・年代の人が集まって、まちのことを気軽に話し合う場がないように思う。公的機関が主催で行うような場で留まっているのが現状ではないか。

・市の取組みをもっと集約してはどうかと思う。そうすれば、もっとサービスが利用しやすくなるかと思う。今のように個別的な発信だと、情報が届きにくくなる。

また、行政だけではなくNPO法人などの行政以外の活動がもっと活発になり、連携できればと思う。

【まとめ】

・子育てに関する支援や子どもの居場所など、さまざまな取組みがある。これらの情報を必要な人にいかに届けるかが重要。

そのためにも、行政の取組みについては、もっと集約するのの一つ。

・不登校等に悩む保護者が、行政の窓口でいきなり相談に行くのは勇気がいることなので、もう少し気軽に話すことができる場があれば救いになるのでは。

・そもそも、福知山はいろんな立場・年代の人が集まって、まちのことを気軽に話し合う場がないように思う。